

平成25年4月8日

青森県知事 三村申吾 殿

住所 青森市大字樽沢字村元 365-4  
災害救助犬育成連絡協議会  
会長 岩本良二



平成24年度あおり新しい公共支援事業（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）完了実績報告書

平成24年10月12日付け青県文第618号で補助金の交付決定の通知を受けた平成24年度あおり新しい公共支援事業（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）が完了したので、青森県補助金等の交付に関する規則第12条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業に要した経費の精算額 金 3,211,000円
- 2 補助金精算額 金 3,200,000円
- 3 関係書類
  - (1) 平成24年度あおり新しい公共支援事業の成果等報告（様式第9号）
  - (2) 収支決算書（様式第10号）
  - (3) その他参考となる書類



平成24年度あおり新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1. 成果等報告

モデル事業名	災害救助犬育成事業																										
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)																										
事業実施主体名	災害救助犬育成連絡協議会																										
実施期間	平成24年10月1日から平成25年3月31日まで																										
支援額 (注釈参照)	<p>※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>総額 3,200,000円</p> <p>内訳</p> <table border="0"> <tr><td>訓練士への謝金</td><td>671,260円</td></tr> <tr><td>訓練士の旅費</td><td>323,060円</td></tr> <tr><td>施設使用料</td><td>79,000円</td></tr> <tr><td>事務用品費</td><td>40,701円</td></tr> <tr><td>通信費</td><td>5,970円</td></tr> <tr><td>印刷代</td><td>36,750円</td></tr> <tr><td>ロゴマーク作成費</td><td>50,000円</td></tr> <tr><td>会計事務人件費</td><td>147,279円</td></tr> <tr><td>会計事務担当者旅費</td><td>76,560円</td></tr> <tr><td>アマチュア無線技士資格取得費</td><td>45,740円</td></tr> <tr><td>除排雪委託費</td><td>300,000円</td></tr> <tr><td>シンポジウム開催費</td><td>298,780円</td></tr> <tr><td>資機材費</td><td>1,124,900円</td></tr> </table>	訓練士への謝金	671,260円	訓練士の旅費	323,060円	施設使用料	79,000円	事務用品費	40,701円	通信費	5,970円	印刷代	36,750円	ロゴマーク作成費	50,000円	会計事務人件費	147,279円	会計事務担当者旅費	76,560円	アマチュア無線技士資格取得費	45,740円	除排雪委託費	300,000円	シンポジウム開催費	298,780円	資機材費	1,124,900円
訓練士への謝金	671,260円																										
訓練士の旅費	323,060円																										
施設使用料	79,000円																										
事務用品費	40,701円																										
通信費	5,970円																										
印刷代	36,750円																										
ロゴマーク作成費	50,000円																										
会計事務人件費	147,279円																										
会計事務担当者旅費	76,560円																										
アマチュア無線技士資格取得費	45,740円																										
除排雪委託費	300,000円																										
シンポジウム開催費	298,780円																										
資機材費	1,124,900円																										
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	<p>① NPO 法人北東北捜索犬チーム ～ 事務局、各犬とハンドラーの情報管理、調教・教育ノウハウの蓄積と開発</p> <p>② 災害救助犬岩手～災害時の捜索(原野、倒壊家屋、瓦礫捜索)の調教教育技術の提供</p> <p>③ 鈴木ドッグスクール ～ 服従の調教・教育の実践</p> <p>④ 第1警察犬訓練学校 ～ 一般的な捜索の調教・教育の実践</p> <p>⑤ ナオ・ドッグスクール ～ 服従の調教・教育の実践</p> <p>⑥ 青森県動物愛護センター ～ 災害救助犬に関する情報提供と指導、助言</p> <p>⑦ NPO 法人災害救助犬ネットワーク～ 災害救助犬に関する情報提供と指導、助言</p>																										
事業概要	<p>2011年の東日本大震災で、災害救助犬の頭数が足りず、効率的な捜索が出来なかった。この問題を解決して災害時に一人でも多くの行方不明者を救出するために、災害救助犬の育成に関する専門的な技術、手法を学び、さらに開発し、より多くの災害救助犬を青森県から社会に提供しようとするものである。</p>																										
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>平成24年10月から翌年の3月までの6ヶ月間、災害救助犬の候補犬とハンドラー(犬の持ち主)が一緒になって調教・教育を受ける。</p> <p>第1段階として服従訓練、第2段階として一般的な捜索基本訓練、第3段階として原野、倒壊家屋、瓦礫の捜索訓練を経験豊かな訓練士が指導する。最終段階では、山中などに宿泊して捜索訓練を行う。</p> <p>各犬とハンドラーの調教・教育の進捗状況を当連絡協議会で把握、記録して、それぞれの犬とハンドラーに合った効率的な調教と訓練を推進する。今回の調教・教育の記録は、マニュアル化してホームページで一般に公開する。</p> <p>3月10日にシンポジウムを開催し、災害救助犬の有るべき姿について県民とともに考える。</p> <p>災害救助犬はどんな犬か、その必要性など、DVD及びパンフレットを作成し、イベントやデモンストレーションの際に配布して広報する。なお、災害救助犬育成連絡協議会の象徴として県民に理解してもらうように、ロゴマークを作成して全ての広報に活用する。</p>																										

	<p>2 実施事項及び実施方法</p> <p>(1) 実施事項</p> <p>6 頭の候補犬は第2段階(搜索基本)を訓練中であり、調教は順調に進んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服従(ハンドラーの指示に従うこと)の反復訓練</li> <li>・候補犬とハンドラーの正しい絆作り</li> <li>・隠れている人を捜し、発見すると吠えてハンドラーに知らせる訓練</li> </ul> <p>を行なっており、座れ、伏せ、待て、来い、脚側歩行、アラート(吠えろの指示で吠える)が出来るようになり(写真1～7参照)、さらに現在では、物陰、雪穴の中に隠れている人を捜し出し、アラート出来るようになった(写真8～14参照)。</p> <p>これらの訓練の他に、犬との日常生活についても指導を受けて訓練しており、指示による排便排尿、訓練に集中させる方法など、使役犬としての一般的な訓練も行った。</p> <p>平成24年10月～平成25年3月までの訓練の詳細を別紙1に示します。</p> <p>(2) 今後の実施計画</p> <p>今回、得られたの調教・教育の記録を整理し、DVDなどにデジタル記録として保存し、ホームページに公開し、希望者が閲覧できるようにする。</p> <p>当協議会の組織の下、さらに訓練を継続し、指導を受けて目標の災害救助犬のライセンスを取得する。</p> <p>3 実施の分担(直接、委託、助成を含めて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① NPO 法人北東北搜索犬チーム ～ 事務局、各犬とハンドラーの情報管理、調教・教育ノウハウの蓄積と開発</li> <li>② 災害救助犬岩手～災害時の搜索の調教教育技術の提供</li> <li>③ 鈴木ドッグスクール ～ 服従の調教・教育の実践</li> <li>④ 第1警察犬訓練学校 ～ 一般的な搜索の調教・教育の実践</li> <li>⑤ ナオ・ドッグスクール ～ 服従の調教・教育の実践</li> <li>⑥ 青森県動物愛護センター ～ 災害救助犬に関する情報提供と指導、助言</li> <li>⑦ NPO 法人災害救助犬ネットワーク～ 災害救助犬に関する情報提供と指導、助言</li> </ul>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>1 支援の成果</p> <p>(1) 経験豊かな訓練士の指導により、候補犬はハンドラーと一緒に災害救助犬としての技能を段階的に習得することができた。</p> <p>その指導方法は災害救助犬育成連絡協議会において記録しており、今後の災害救助犬の育成に活かす事が出来る。</p> <p>(2) 発電機、カメラ、パソコン、無線機及び野営資機材など、災害時出動を想定した実践的訓練に必要な資機材を整備することができた。</p> <p>なお、災害時の搜索活動に不可欠なアマチュア無線の資格認定試験に会員2名が合格する事が出来た。</p> <p>(3) 災害救助犬育成連絡協議会の象徴として県民に理解してもらうように、ロゴマークを作成し広報に活用した(写真15参照)。</p> <p>(4) 訓練場所の浪岡は豪雪地帯であり、毎日除雪しないと、訓練指導者及び受講者の車両の駐車スペースの確保が困難であったが、業者に除排雪依頼することにより駐車スペースを確保することができた。</p> <p>(5) 3月10日、災害救助犬活動シンポジウムを別紙2に示すように開催し、150人の県民が参加して、災害救助犬の必要性について意見を交換し、その理解を深めることができた。(写真17～23参照)。また、別紙3に示すように、シンポジウム終了後に災害救助犬ネットワークと災害救助犬岩手の講師による研修会を開催し、災害救助犬の現状と問題点について率直な意見を交換し、相互理解を深めた。</p> <p>(6) 災害救助犬に関するリーフレット(別添参照)を作成したことにより、今後の広報活動に活用することが出来る。</p> <p>2 波及効果</p> <p>今回の事業が順調に推移し、災害救助犬育成の夢が現実的なものになって来たことから、会員相互の結束と災害救助犬育成へのさらなる意欲が生まれてきた。</p> <p>この事業に関する新聞とテレビ報道、そしてシンポジウム開催などにより、多くの県民の災害救助犬に関する理解を深めることが出来、2名が入会を申し込み、1頭が候補犬の申込をした。</p> <p>3 今後の展望等</p> <p>災害救助犬の必要性を県民が正しく理解することにより、さらに入会者や候補犬が集まって来ると予想される。</p> <p>今回の事業により培った当協議会の組織及び技術を維持、改善して、4月以降も多くの災害救助犬を社会に輩出するために、調教・教育を展開したいと思います。</p>

	<p>4 自己評価 災害救助犬の候補犬およびそのハンドラーは、スタート時(写真 16 参照)に比較して、確実に調教・教育され、服従から捜索レベルへと進むことが出来た。</p> <p>5 その他 今後は、災害救助犬のライセンス取得を目指して、倒壊家屋やガレキでの捜索訓練を行なう予定です。また、災害救助犬ネットワーク(富山県)の合宿など、県外での練習会に積極的に参加して、技術の習得と犬のレベルアップを図りたいと思います。 今回、あおり新しい公共支援事業として災害救助犬育成事業が認められ、その基盤整備が出来ました事を心から感謝致します。</p>
評価ランク	<p><input type="checkbox"/> S : 特に優れた成果が得られた    <input checked="" type="checkbox"/> A : 優れた成果が得られた    <input type="checkbox"/> B : 一定の成果が得られた    <input type="checkbox"/> C : 限定的であるが成果が得られた    <input type="checkbox"/> D : 成果が得られなかった</p> <p>(該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 各記載事項について、別様の参考資料の添付可能。

2. 添付書類等

- (1) 収支決算書(様式第10号)
- (2) 備品購入費の財産管理台帳(様式第6号)
- (3) その他参考となる書類

収 支 決 算 書

災害救助犬育成連絡協議会

(収入)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	積 算 内 訳
補助金 研修会費 雑収入	新しい公共の 場づくりの モデル事業  3,200,000円  21円	3,200,000円 11,000円 21円	青森県補助金 銀行預金利息
計	3,200,021円	3,211,021円	

(支出)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	補助対象経費	積 算 内 訳
訓練士への謝金	671,260 円	671,260 円	4,700 円 6,060 円 104,000 円 130,500 円 131,000 円 125,000 円 126,000 円 44,000 円	10/15 訓練士との打合せ 10/28 訓練士との打合せ 11/ 4 10 月分 11/25 11 月分 12/31 12 月分 2/ 1 1 月分 3/ 1 2 月分 3/15 3 月分
訓練士の旅費	323,060 円	323,060 円	30,700 円 85,540 円 68,940 円 68,940 円 68,940 円	11/ 4 10 月分 11/25 11 月分 12/31 12 月分 2/ 1 1 月分 3/ 1 2 月分
施設使用料	79,000 円	79,000 円	14,200 円 15,200 円 14,400 円 13,200 円 13,200 円 8,800 円	11/ 4 10 月分 11/25 11 月分 12/31 12 月分 2/ 2 1 月分 3/ 1 2 月分 3/15 3 月分
事務用品費	40,701 円	40,701 円	1,440 円 1,260 円 4,470 円 1,194 円 22,075 円 1,274 円 8,988 円	10/20 コピー代 1/23 スタンプ 1/28 プリンターインク 2/18 接着剤他 2/26 プリンターインク 3/ 9 ペン 3/18 パソコンインク
通信費	5,970 円	5,970 円	320 円 350 円 240 円 640 円 280 円 140 円 4,000 円	12/18 切手 12/27 速達 2/14 切手 2/22 宅配便 2/27 郵送料 3/ 1 郵送料 3/18 切手
印刷代	36,750 円	36,750 円	36,750 円	3/ 9 パンフレット3つ折
ロゴマーク作成費	50,000 円	50,000 円	50,000 円	災害救助犬育成連絡協議会のロゴマーク
会計事務人件費	147,279 円	147,279 円	29,600 円 28,800 円 24,000 円 21,600 円 21,600 円 21,679 円	11/ 4 10 月分 11/28 11 月分 12/31 12 月分 1/31 1 月分 3/ 1 2 月分 3/15 3 月分
会計事務担当旅費	76,560 円	76,560 円	13,200 円 15,840 円	11/ 4 10 月分 11/28 11 月分

その他経費・ アマチュア無線技士資格 取得費	45,740 円	45,740 円	13,200 円 11,880 円 11,880 円 10,560 円	12/31 12月分 1/31 1月分 3/1 2月分 3/15 3月分
除排雪委託費	300,000 円	300,000 円	45,500 円 240 円	4級講習及び受験2名 22,750 円×2 振込手数料
シンポジウム開催費	298,780 円	309,780 円	300,000 円	1月、2月 講師4名、受講者5名分の駐車ス ペースの除排雪 別紙4補則説明参照
資機材費	1,124,900 円	1,124,900 円	298,780 円	別表1参照
計	3,200,000 円	3,211,000 円	3,200,000 円	別表2参照

※収支決算に係る証拠書類（領収書写し等）を添付すること。

別表1  
(支出～シンポジウム開催費)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	補助対象 経費	積 算 内 訳
パネリスト等旅費	87,480 円	87,480 円	87,480 円	4名 (西坂、高山、伊藤、四戸)
弁当代	19,200 円	19,200 円	19,200 円	
記念グッズ代	37,495 円	37,495 円	37,495 円	
チラシ印刷代	10,500 円	10,500 円	10,500 円	
講師謝礼	30,000 円	30,000 円	30,000 円	1名 (会田)
パネラー謝礼	30,000 円	30,000 円	30,000 円	3名 (西坂、山上、谷茂岡)
司会者お礼・車代	40,000 円	40,000 円	40,000 円	1名 (加藤)
研修会	44,000 円	55,000 円	44,000 円	(別に徴収会費 11,000 円)
ATM利用手数料	105 円	105 円	105 円	
計	298,780 円	309,780 円	298,780 円	

※収支決算に係る証拠書類 (領収書写し等) を添付すること。



## 別表2

資機材費(備品) ※ 30,000以上			
品名	個	支出額	備考
デジタルカメラ	1	67,780	キャノンデジタル一眼レフカメラ EOSKISSX5 WKIT
ノートパソコン	1	95,800	SONYノートパソコン GVC12110FJP
発電機	1	85,050	YAMAHA EF900is
無線機(要免許)	2	83,600	STANDARD VX-8D
テント(2人用)	1	36,810	モンベル ステラリッジテント2型
テント(4人用)	2	89,820	モンベル ステラリッジテント4型
小計		458,860	
資機材費(消耗品)			
品名	個数	支出額	備考
テント用敷幕	1	6,000	テントマットドーム用2型
テント用敷幕	2	7,600	テントマットドーム用4型
テント用敷幕	2	9,800	ステラリッジ4型グラウンドシート
ビクターブHX	1	17,000	
アルミタープポール240	2	6,400	
アルミニポール165	6	13,200	
オプションルフトドーム用	3	7,500	
テント(トイレ用)	1	5,040	
テーブル4人用	2	28,455	
現地本部用タープ	1	21,210	
テーブル(炊事用)	1	13,650	
照明具	1	5,565	
野外コンロ	1	12,443	
野外コンロキャリアケース	1	3,129	
野外用調理具		6,741	クッキングクッカーセット
野外用調理具		2,488	容器付まな板
野外用調理具	3	11,700	チタンボール・ディッシュセット
野外用調理具	1	8,600	チタンクッカー#1D 3Dセット
野外用やかん	1	2,331	
野外用ストーブ	3	21,672	
デジタルカメラ、ノートパソコン消耗品		39,310	
携帯GPS装置	3	34,977	電池付
ガソリン携行缶	1	2,970	
無線機(免許不要・付属品込)	3	58,881	
無線機付属品		17,200	
拡声器	1	17,500	
簡易トイレ	1	9,249	
食材保管容器	1	3,328	
ポリタンク(飲料水用蛇口付)	2	1,661	
小計		395,600	

資機材費—消耗品その他

品名	個数	支出額	備考
ネット・フック(ホームック)	3	3,602	
役立ちバスケット代(サンデー)	3	4,680	
ホワイトボード(オフィスバリュー・アスクル)	5	34,460	
釘・ひも他(サンデー)		2,526	
ラック・フック他(サンデー)		11,754	
コーヒー・砂糖(ユニバース)		998	
灯油ポンプ(ホームック)	1	1,296	
ゴムトアタリ(ホームック)		196	
PCペグ(イオンスーパー)		616	
ガソリン(株)藤菱	200	2,879	
木炭他(サンデー)		4,756	
エンジンオイル(コメリ)	1	880	
箸・どんぶり(ホームック)		2,682	
鍋(ホームック)	1	6,980	
スコップ(サンデー)など		11,881	
灯油(サンデー)	200	1,512	
紙皿他(ホームック)		1,038	
カラーコン(セカ)	4	420	
ガソリン(全農)	200	2,920	
雪ヘラ(サンデー)	1	2,247	
ボトルキャップ(デイリーヤマザキ)	2	693	
つるはし(サンデー)	1	977	
乾電池(マックスバリュー)	8	1,791	
カラーコン(セカ)	13	1,365	
スコップ(サンワドー)	1	1,960	
袋(パッケージプラザ)		2,532	
ウレタンコート(サンデー)	5	8,375	
スポンジ(サンデー)	1	362	
ベスト	30	129,262	
帽子	10	24,800	
小計		270,440	
合計(税込)		1,124,900	

財産管理台帳

災害救助犬育成連絡協議会

事業実施年度	平成24年度		補助 事業 名	あおり新しい公共支援事業			管理者名			会長 岩本良二	摘要	
	名称	形状寸法等		数量	単価	取得金額	検収又は 取得年月日	耐用 年数	処分制限 年月日			処分の状況
補助対象 経費名												
備品購入費	デジタルカメラ	キャノンデジタル 眼レフカメラ EOSKISSX5 WKIT	1	67,780	67,780	2012/11/4	5	2017/11/3				
備品購入費	ノートパソコン	SONY ノートパソコン SVS13118FJB	1	95,800	95,800	2012/11/4	4	2016/11/3				
備品購入費	発電機	YAMAHA EF900is	1	85,050	85,050	2012/11/14	5	2017/11/13				
備品購入費	無線機(要免許)	STANDARD VX-8D	2	41,800	83,600	2012/11/17	5	2017/11/16				
備品購入費	テント(2人用)	モンベル ステラリ ッジテント 2型	1	36,810	36,810	2012/11/20	3	2015/11/19				
備品購入費	テント(4人用)	モンベル ステラリ ッジテント 4型	2	44,910	89,820	2012/11/20	3	2015/11/19				

(注) 1 補助対象経費名欄には、施設等の整備費又は設備品購入費の別を記入すること。

2 処分制限年月日欄には、処分制限の終期を記入すること。

3 処分の内容欄には、譲渡、交換、貸し付け、担保提供等別に記入すること。

4 摘要欄には、譲渡先、交換先、貸し付け先及び抵当権等の設定権者の名称又は補助金返還額を記入すること。

5 この書式により難しい場合には、処分制限期間欄及び処分の状況欄を含む他の書式をもって財産管理台帳に代えることができる。

## シンポジウムの開催について

### 1 目的

平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、被災者の救出に災害救助犬が活躍しました。しかしながら、青森県内に実働する災害救助犬は2頭がいるのみで、大規模な災害が発生した際に、迅速で綿密な対応ができない現状にあります。

このことから、多くの災害救助犬を育成・普及する環境を作り、災害救助犬の活動について関係者の理解を図るとともに、県民にも周知を図る事を目的として本シンポジウムを開催するものです。

2 日時 平成25年3月10日(日)

10時00分から16時00分まで

3 場所 青森県動物愛護センター

4 主催 災害救助犬育成連絡協議会

5 共催 (公財)日本動物愛護協会

青森県動物愛護センター

(社)青森県獣医師会

6 司会 青森テレビ アナウンサー 加藤由里子

7 内容 (写真 17~25 参照)

◇ 10:00~16:00

災害救助犬の活動に関する資料展示

(災害救助犬ネットワーク、北東北捜索犬チーム)

◇ 11:00~12:00

緊急災害時ボランティアリーダー育成研修

(愛護センター登録ボランティア等)

◇ 13:00~13:50

災害救助犬に関するパネルディスカッション

・コーディネーター 会田保彦 (公財 日本動物愛護協会常任理事)

・パネラー

西坂直樹 (NPO法人災害救助犬ネットワーク 理事長)

山上真一 (青森県救助救護検討会 消防職員、防災士)

岩本良二 (NPO法人北東北捜索犬チーム 理事長)

谷茂岡良佳 (緊急災害時動物救援本部)

◇ 14:00~14:30

講演「東日本大震災における動物救護と今後の課題 (仮題)」

講師 会田保彦 (公財 日本動物愛護協会常任理事)

◇ 14:45~15:00

訓練中の災害救助犬候補犬6頭のデモンストレーション

(災害救助犬育成連絡協議会)

◇ 15:00~15:30

災害救助犬と消防署レスキュー隊との連携による救出活動デモンストレーション

(北東北捜索犬チーム、青森県救助救護検討会)

- 8 募金活動
- 9 記念グッズの配布 200 個
  - ・“その時のために、育てよう災害救助犬”のリーフレット(別添資料参照)
  - ・シール(ロゴ、タースケ君)(別添資料参照)
  - ・ティッシュ(東日本大震災被災児童の絵入り)(写真 17~25 参照)
- 10 広報活動
  - ・ポスター・チラシ作成(別添資料参照)
  - ・新聞
  - ・広報誌

別紙3

## 研修会の開催について

災害救助犬ネットワークおよび災害救助犬岩手の先生方をお呼びして、災害救助犬の育成に関して研修会を下記の通り開催します。

参加希望者は事務局（岩本）までお申し込みください。

### 記

- 1 日時 平成 25 年 3 月 10 日 午後 5 時 30 分
- 2 場所 青森市桜川 浜寿司
- 3 講師 災害救助犬ネットワーク 理事長 西坂直樹  
「災害救助犬の活動と問題点」  
災害救助犬岩手 副会長 四戸正子  
「災害救助犬の育成の現状について」
- 4 会費 お 1 人様 1,000 円
- 5 申込期限 平成 25 年 3 月 8 日まで